

ふるさと歴史アラカルト

お酒による藩士たちの失態

忘年会や新年会など、これからお酒の席が増える時期となります。飲みすぎて失敗した話や取り返しのできない事になった話などを耳にすることもありますが、江戸時代にも同様の話はあったようです。今回は記録に残っているものの中で『岩邑年代記』からいくつかの話を紹介しましょう。

文政11(1828)年、岩国藩士数人が、柱野へ山鳥追いを行う予定としていましたが、当日に雨が降ったため、柱野へ行かず、川西の周辺で酒宴を催しました。その中の一人、横道直が酔っ払って横山周辺で騒いだため、逼塞門を閉ざして、日中の出入りを禁じることを命じられました。その他の人々も注意を受けています。

安政6(1859)年、藩主やその家族を診察する奥医師の一人、都野玄僊が酒に酔って当直に出勤し、診察ができなかったため、自宅に帰らされました。自宅謹慎を申し出たため、50日間

の閉門(門や窓を閉ざし、昼夜とも出入りを禁じること)を命じられました。万延元(1860)年、直心自得流という流派を開き、岩国の剣豪として知られる長谷川藤次郎が、川西の蔵役人をしていた際、交代の帰り道の船で、酒に酔って荷運びをする人夫を殴りました。藤次郎はこれまでも酒によるお咎めを受けており、慎まないといけないはずであったことから、不届きとして、川西の蔵役を交代させられ、逼塞を命じられました。

文久2(1862)年、岩国藩士大屋宮太郎が、大草与兵衛の家で酒に酔って、大西金槌に手傷を負わせました。不届きとして、藩士としての地位を剥奪し、柱島へ流罪となりました。また、なだめられなかったとして、金槌の方もお叱りを受け、宮太郎の父である大屋徳助も日頃の教えが行き届いていないとして逼塞を命じられました。

※岩国藩の成立…正式には慶応4(明治元年1868)年

◀『岩邑年代記』…岩国藩における年代記で年代順に記録されている。多くの人に書き写されているが、今回の史料は嘉永5年に三浦伝右衛門が書き写したもの。嘉永5年以降は自身が書き継いでいる。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)



岩国市 人口・世帯

人口 143,450人【前月比 -39人】 男性 67,935人 女性 75,515人

世帯 66,807世帯【前月比 -5世帯】 ※外国人人口を含む(平成25年11月1日現在)

交通事故発生件数 10月分事故件数 56件(546件) 死者数 0人(7人) 傷者数 63人(657人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成25年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337